

神経精神科この1年

神経精神科医長 鎌 田 隼 輔

診 療 体 制

平成13年1月から3月までは前年から引き続き、吉川医師、井村医師、吉田医師、鎌田の4人体制で診療を行いました。4月から井村医師は石橋病院（小樽市）、吉田医師は札幌医大神経精神医学教室へそれぞれ赴任しました。井村医師、吉田医師の後任として、札幌医大神経精神医学教室から山本健治医師（平成11年、旭川医大卒）、原田研一医師（平成12年、旭川医大卒）が着任しました。これまでと同様に4人体制で外来診療と病棟診療を行いました。臨床心理士の豊島眞先生（札幌カウンセリングセンター）には、いままでどおり月2回来ていただき、心理検査とカウンセリングをしていただいています。

外 来

外来は平成13年4月より毎日午前2診、午後1診体制に変更して行い、病棟は従来通り基本的に主治医制で診療しています。これまで外来担当医師が病棟患者診察のため外来診療を一時中断することがあり、外来患者さんに御迷惑をおかけしていました。平成13年4月からは外来担当医師の病棟受け持ち患者の診療を外来に出ていない医師が代行して診療するようにしました。そのため外来の診療がスムーズになり、待ち時間もいくらか短縮されたと思います。

平成13年4月より、医療保護入院（精神保健福祉法33条）の手続きを医事課行っていただくことになりました。このことにより、患者さんは病院の入院手続きと精神保健福祉法による手続きが一括して行えるようになりました。また、外来看護業務も円滑に進むようになりました。

病 棟

平成13年1月から12月までの新入院患者数は第1病棟（開放病棟）、第2病棟（閉鎖病棟）あわせて172名（前年比+15.4%）でした。各病棟

ともに入院患者の高齢化、入院期間の長期化が進んでいます。平成13年10月1日の調査では、全入院患者に占める60歳以上の患者さんの割合は44.9%、入院期間が10年以上の患者さんは48.9%でした。そのため、身体合併症の治療を他科の先生に御願ひすることが増えています。この場を借りてお礼申し上げます。

入院患者さんのご家族も高齢化がすすみ、面会に来られるのも困難になっています。病状が安定し、ご家族の援助があれば退院が可能と判断される方々も家族の援助が得られない状況です。地域として病状の安定された患者さんを受け入れ、生活の場所を提供し、援助を行う必要があると考えます。

現在の精神科病棟は昭和31年に完成した建物で老朽化が進んでいます。使用しているベッドやデイルームのテーブルや椅子も古くなりました。当院の長期計画では精神科新病棟の建設は平成20年に予定されていますが、一日でも早く新病棟が新築されるよう努力したいと思います。

精神科サテライト・クリニック事業

平成9年度から枝幸町国保病院で精神科サテライトクリニック事業を開設していますが、これまで4名の医師が不定期に交替で出張していたため患者さんの病状変化を十分に捉えられないなどの問題がありました。平成13年4月より鎌田と原田医師が隔週水曜日に診療にあたり、この問題の改善を行いました。平成13年10月からはサテライトクリニック担当医の代行医として、旭川医科大学精神医学講座から石丸雄二医師（平成7年卒）に来ていただき、病棟診療をしていただいています。今後もサテライトクリニックの充実をはかりたいと思います。